

紀の川市長期総合計画審議会委員への将来像に関する意見聴取結果

※市民の皆さまから得られた「紀の川市の理想の未来像」について、追加が必要な項目について意見聴取を行いました。

NO	委員（一市民、団体の代表、有識者や専門家として）がご自身の経験、実感から考える「あるべき紀の川市の将来像」	左記に込められた思いやご自身の経験	掘り下げたい課題
1	子どもから高齢者まで一人ひとりが輝き、健康で心豊かな暮らしが出来る住みよいまち。	左記は「人（ライフスタイル）中心のまちづくり」であり、それには行政だけに頼るのではなく、「 公民連携 」でなければ実現できない。したがって第二次長期総合計画策定と共に「 公民連携会議 」の設置が必要。	① 紀の川市版DMO ※1 ② 健康づくり・フレイル（虚弱）予防 ③ 経営品質会議（市民・企業・行政が三位一体となったまちづくりを進めていく上で、それぞれの視点から行政の経営品質の向上を目指した協議を行う会議）
2			① 防犯、防災、危機管理、安心安全に対する取り組みについての議論を深めたい。 ② 紀の川市誕生時の人口70,174人から今年10月64,646人で、人口5,000人以上の減少、今後は減少をくい止められる事を目標に 若者と高齢者が共に幸せに暮らせる関係 をいかに構築できるか。
3	紀の川市で 仕事をする人を呼び込み たい。 （ 就農 したい 若者 は是非）	農業を始めるには、まず 地元の人間が協力 する。	意欲ある若者 をピックアップして仲間に。
4	断片的な未来像でなく市民ワールドカフェにおいて抽出された意見をつなぎ合わせ、 財政収支も勘案 した総合的な集約政策が必要です。 「 世代間交流が活発 で、 若者 がいいきとした 持続可能なまちづくり ができる紀の川市」	【ソフト基盤】 将来が停滞するようなまちづくりでなく、 若い人々 が紀の川市で活躍でき、発言できるための コミュニティづくり の確立 【ハード基盤】 財源を考えた コンパクトシティ の構築	都市基盤整備における「第二次紀の川市都市計画マスタープラン：地域創生計画」を作り上げたい。
5	・ 社会的弱者にやさしいまちづくり ・高齢者や障害者をはじめ、 すべての人びとが安全・安心に暮らせる福祉のまち	自分の母親が90歳ちかくなつて、足腰が不自由な身になった時によく公園に出かけていましたが、近隣の人達が声をかけてくれたりしていたようで、私にもおばあちゃんが公園に散歩に行ってたよと教えてくれたりして、母親の所在が良く分かって有難かったのを覚えています。随分と地域の人達にも気にかけて頂き、お世話になっていました。	例えば公園などを作って、地域の人々がお互いに つながり を持てる場づくりが必要です。 自助、互助、共助、公助の連携 を深め、お互いに助けたり助けられたりするまちづくりのための組織・仕組みを作ることが必要です。そうすれば災害時等にも随分とその組織・仕組みが役立つと思います。

紀の川市長期総合計画審議会委員への将来像に関する意見聴取結果

※市民の皆さまから得られた「紀の川市の理想の未来像」について、追加が必要な項目について意見聴取を行いました。

NO	委員（一市民、団体の代表、有識者や専門家として）がご自身の経験、実感から考える「あるべき紀の川市の将来像」	左記に込められた思いやご自身の経験	掘り下げたい課題
6	紀の川市の <u>観光地をアピール</u> できる施設をつくり、イベント等ができればよい		
7	・ <u>若者</u> が学校を卒業後、 <u>地元で安心して仕事</u> ができる企業 ・ <u>農業では、収入が安定</u> し生活ができ、 <u>子ども達は親と一緒に暮らし</u> 、親の面倒を見て、お年よりは子ども、孫との生活で <u>老後の生きがいを持てる暮らし</u>	子ども達が大学、就職、結婚を機に紀の川市から出て生活をしている	
8	更に加速するであろう人口の減少と高齢化 併せて増加する耕作放棄地、農業従事者の不足や後継者不足など危惧する現状にあることを踏まえ、 <u>財政基盤とリンクした実現可能な将来像</u> の樹立	現状の見極めと過大な構想 政策方針との整合性	土地利用計画、ゾーンの設定

※¹ DMO (Destination Management Organization: デスティネーション・マネージメント・オーガニゼーション) とは、観光物件、自然、食、芸術・芸能、風習、風俗など当該地域にある観光資源に精通し、地域と協同して観光地域作りを行う法人のこと。